

小栗上野介情報 53

ホームページ <http://tozenzi.cside.com/>

Eメール: sharmila@theia.ocn.ne.jp

2013(平成25)年 1月

発行 東善寺 住職 村上泰賢

群馬県高崎市倉渕町権田169

〒370-3401 TEL&fax: 027-378-2230

振替 00120-1-406206 東善寺

〈小栗上野介の言葉で一につぽん復興の前掛け〉



どうにかするぞ

一言で国を滅ぼす言葉は『どうにかならう』の一言なり、江戸幕府が滅亡したるは、この一言

なり

小栗上野介

どうにかするぞ、復興につぽん

233111446

どうにかできないのは能力の限界ではなく執念の欠如である

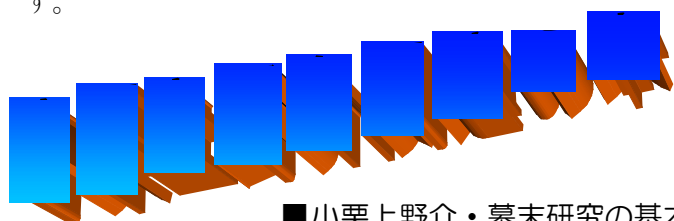
土光敏夫

◆株式会社「NYS」(エヌワイエス・岩手県花巻市の畜産飼料会社)中川良成社長は、小栗上野介と土光敏夫の言葉を引用して、復興する意思を持つと、と呼びかける前掛けを制作しました。

◆23311446は東日本大震災の日時・平成23年3月11日14時46分・です。

◆小栗上野介のこの言葉は知られていましたが、こうした形で役立たせているのは初めてです。中川社長は一昨年の会社の利益をすべて被災地の支援金として送りましたが、昨年はお金だけでなくもっと大事なものを贈りたい、と考えてこの前掛けを作ったとのこと。

◆仕事などで使おう、という方はお取次ぎします。2500円



■小栗上野介・幕末研究の基本史料

本多夏彦編

小栗日記

再版 ¥2,500円+送料

◇昭和47年に群馬県史料集第7巻で発刊された『小栗日記』だけが再版されました。

◇西軍に殺される4日前まで書いていた日記は、心打たれるものがあり、かつ貴重な史料といえます。

◇主な内容 日記(慶応3年1月~慶応4年間4月2日までの小栗上野介の自筆日記)／家計簿「量入制出簿」(嘉永3年~安政2年5月)自筆の家計簿からも旗本小栗家の生活や、人の出入りがうかがえる／勝手方勘定帳(安政5年~安政6年12月)／勘定帳(安政7年~文久元年12月)／納(文久2年~文久3年12月)村々役人願出取次留(後藤八郎衛門の手記)／航海日記・抄(佐藤藤七)／航海日記・抄(柳川兼三郎)／小栗上野介の為替取建所取立建議(本多夏彦)

◆東善寺でも扱います。



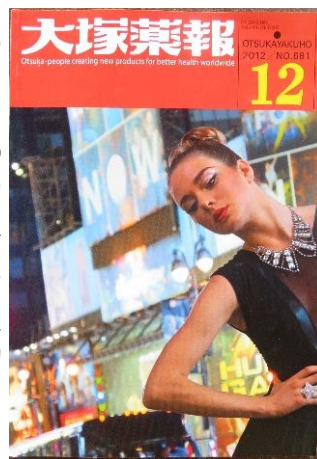
大塚製菓の社内誌

『大塚菓報』12月号に

小栗上野介の
紹介記事

◇大塚製菓の社内報「大塚菓報」12月号で、小栗上野介の業績と生涯が丁寧に紹介されています。

◇薬局や医院などでお願いすれば、見せてもらえるでしょう。



小栗忠順を評して

「徳川・幕府絶対主義」は誤り

江戸城の大評定で徳川慶喜を前に、主戦論を唱えたことから小栗を「徳川・幕府絶対主義者」と定義づけやすいが、じつは小栗は徳川幕府の政権はいずれ終わると予見していたから、単純には決めつけられない。

□明治維新の4、5年前に幕府の退陣を予見

それは、小栗の建議による横須賀製鉄所建設案が具体化した元治元年（1864）ころの話。ある人が「幕府の運命も中々むつかしい。費用を掛けて造船所を造っても成功する時分には幕府はどうなっているか分らない」と言ったところ、小栗は

「幕府の運命に限りがあるとも日本の運命には限りがない。自分は幕臣であるから幕府の為に尽くす身分ではあるけれども、（それは）結局日本の為であって、幕府のしたことが長く日本の為となって徳川のした仕事が成功したのだと後に云はれれば徳川家の名誉ではないか国の利益ではないか。同じ売り据えにしても**土蔵付売据**のほうがよい。跡は野となれ山となれと云って退散するのは宜しくない」（島田三郎『同方会報告』第壱号）

と語っている。栗本鋤雲も「小栗は横須賀製鉄所が出来上がれば、いずれ**土蔵付き売家**の栄誉が残せる、と笑った」（『匏庵遺稿』）と、徳川幕府の退陣を見通していたことを伝え、また別のところで小栗は「親の病気が治る見込みがないからと言って薬を与えないのは孝行ではない」（福地源一郎『幕末政治家』）として、幕府の将来を治る見込みのない重病人にたとえている。

□朱子学の儒将・小栗忠順

明治維新の4、5年前に、小栗はなぜこれほどの先見性を持ち得たのか。小栗忠順の漢学の師安積艮斎の研究家安藤智重氏（郡山市・安積国造神社宮司）は小栗は朱子学を身につけた儒将であるとして、「朱子学にいう中国古代の先王による理想の政治は、本来非現実のものとしているから、徳川家を絶対視しない合理的な思想であり、この朱子学によって真の武士をめざした小栗に対し

、朱子学から派生した水戸学は、理想の政治を行なった中国古代の先王を日本の皇室に置き替え絶対視した」（「安積艮斎と小栗忠順」『たつなみ』37号）……から、水戸学を思想基盤としていてニセの錦旗に震え上がった慶喜と、朱子学を基盤とした合理思想でアメリカの大統領制度も見聞した小栗とは、大きな隔たりがあると説く。

江戸を去る直前、渋沢成一郎から彰義隊隊長にと懇望された小栗は「主君が恭順の意を示している以上、大義名分のない戦いはしない。」（塚越芳太郎『読史余録』）と拒絶している。

たしかに自分は、恭順の意を示す主君をさらに追討しようという西軍に対し、大評定でこれを迎え撃つ主戦論を進言した。それは家臣として当然のことである。

しかし、主君が進言を容れない以上、朱子学に云う「人臣たるの礼、頭^{あら}わには諫^{いさ}めず。三たび諫めて聴かれざれば、則ち之れを逃^さる」（「礼記」）

として、なすべきことは手を尽くし言うべきことは言った、もう武士としての我がこと終われり、といった心境で権田村への隠棲帰農を考えたといえよう。幕府に提出した「土着帰農願」で「上知（知行地の返上）」を申し出たのも、この線上の考えからと理解できる。

□勝海舟が言いだしっぺ

明治以後生き残った勝海舟が小栗上野介を評して「「誠忠無二の徳川武士で、先祖の小栗又一によく似ていたよ。一口にいふと、あれは、三河武士の長所と短所を両方具へて居ったのサ。しかし度量の狭かったのはあの人のためには惜しかった」（勝海舟「氷川清話」）と小栗上野介の人物矮小化を図った言葉が、「小栗は徳川・幕府絶対主義者」説の始まりとなる。

会ったこともない260年も前の小栗家先祖によく似ている、などハツタリをきかせた無責任な放言に後世の学者や物書きが惑わされ、安易に乗せられ単純に「徳川・幕府絶対主義者」と決めつけるのは、そろそろ改めるべきであろう。

インターネットホームページの小栗上野介

ホームページ「東善寺」では、次のような新ページをアップしております。HP「東善寺」<http://tozenzi.cside.com/index.htm> から、どうぞご覧ください。

◆小栗忠順の通貨交渉…フィラデルフィアで行なった通貨の分析実験はどんな結果だったか。文中の作図に苦心しました

◆小栗忠順「徳川・幕府絶対主義」説は誤り…小栗上野介の先見性は理想とする統治者観に由来する

◆日の丸を国旗に決めた遣米使節…それまで日本の「船の印」だった日の丸を「国の印」にした
▼日の丸で歓迎される使節
のが遣米使節

◆阿部道山著「小栗上野介正伝」の錯誤…戦前に発行の好著だが、「小栗上野介家の菩提寺はどこか」「小栗公の首級はどこへ埋められているか」の二つの問題と、関連する疑問箇所を指摘

◆お殿様のお首級迎え…上記に関連して、館林から首級を奪い返した権田農民の苦心とその後の顛末

◆国定「修身」教科書が作った咸臨丸「神話」…勝海舟・咸臨丸が有名なのは、大正7年から昭和20年まで国定教科書「修身」で誇張・脚色して教えた「お話」が、戦後も「歴史」教科書に入っているから。



BS-TBS 6ch で放映 ライバルたちの光芒

12月12日（水）22：00～23：00

住職村上泰賢はBS-TBSの番組「ライバルたちの光芒」の「勝海舟vs小栗上野介」で小栗上野介の人物像を語りました。

◇勝海舟は作家童門冬二氏が語り、俳優高橋英樹氏が「ライバル奉行」として司会し、最後に判定を下すという役割でした。

◇収録では

・横須賀造船所は日本の産業革命の地／小栗上野介を「徳川絶対主義者」とするのは間違い／明治維新の4、5年前に小栗上野介は幕府がいずれ退陣することを予見していた／幕府は終わっても日本は残る、残る日本の為に残す気概で造船所を造った／小栗上野介ら遣米使節よりも勝海舟・咸臨丸が有名なのは、大正7年から敗戦まで国定教科書「修身」で誇張して教え、戦後も「歴史」教科書に入ったから

などを語りましたが、放映時間の制約でかなりカットされた部分も多かったです。最後の判定で高橋氏は苦渋の判定として勝海舟に軍配を上げましたが、「演じてみたい人物はぜったい小栗上野介です！」と強く語っていました。◆再放送は（水）のBS番組欄⑥にご注目を

